

登録有形文化財となった久米路橋の特徴

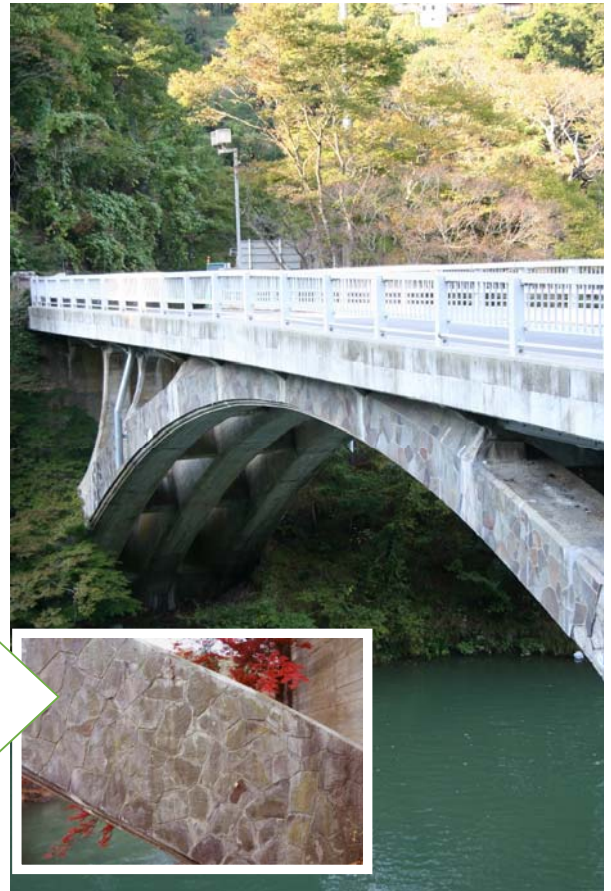
景勝地を意識したデザイン

- 1 溪谷になじむアーチ橋
- 2 部材に変化をもたせ、単調さを避けた(重要文化財坂戸橋と同じデザイン)
- 3 桁側面のコンクリートに、高級資材である鉄平石を貼る(全国に例を見ない)

鉄平石(てっぺいせき)

長野県の諏訪地方・佐久地方に広く分布する輝石安山岩の板状節理がよく発達したもの。板状に剥がれやすい性質を持ち、2~3cm内外の厚さに剥離(はくり)された鉄平石は、建築用の内装外装用石材として広く利用されている。

資料作成：土木・環境しなの技術支援センター



はね ばし 信濃国を代表する橋 江戸時代は 刎橋だった 久米路橋(来目路橋、水内曲橋)

2

資料作成：土木・環境しなの技術支援センター理事 長野県立歴史館名誉学芸員 山浦 直人



90. 諸国六十八景 信濃久米路橋 歌川広重(二代) 名古屋市長文庫蔵



出典 左:「定本信州の浮世絵」 右:「信濃奇勝録」(いずれも19世紀)

江戸初期に水内橋として書物に登場するが、文書記録は18世紀半ばとされる。

弘化4年(1847)善光寺地震での犀川塞き止め水害で、流失したと記録にある。

江戸時代は「刎橋」という当時の高度な橋梁形式である。

明治時代以降の久米路橋には4つの型式がみられる(①~④)

久米路橋(くめじばし)の由来(伝説)

- ・創建は、推古天皇時代(7世紀)
- ・百済の渡来人「路子工(みちのこたくみ)」、意味とすれば「道路技師」たち?
- ・山梨の猿橋などとともに架けた橋の一つとされている。



①明治初期も基本構造は刎橋

現在までの久米路橋(幾つかの形式をへてコンクリート橋へ)

3

出典 長野県建設部所蔵写真



② 左: 木造ハウトラス(明治)



③ 中: 吊り橋



④ 右: コンクリートアーチ桁(現橋)開通式



久米路橋

県歌信濃の国の四番は、それまでメロディーを変え、雅しく信濃の名所が歌われる。その1つに「心してゆけ 久米路橋」が登場する。久米路橋は、松代藩の公式名称では水内橋と呼ばれ、17世紀にはその名前が登場する。

長野県を南北を結ぶ幹線道路: 長野飯田線が犀川沿いに開通した昭和初期に、篠ノ井と結ぶ要路として、昭和8年久米路橋は永久橋となる。

橋の型式は、鉄筋コンクリートアーチ橋。その特徴は景勝地にふさわしく、アーチ桁の側部に「鉄平石」が装飾として張られ、現在もみることができる全国での希少の事例である。

優れた架橋技術で完成した久米路橋(完成時)

4



渓谷でのアーチ橋の施工を支えた架橋の技術

(アーチが動くまでコンクリート荷重を支えた 優れた木造橋梁技術が素晴らしい)

地域の大きな期待

開通式にあつまった周辺地域の皆様。
(対岸の崖にも多数の住民)



設計者 棚谷興市と完成記念アルバム

(図面、写真アルバムはご子息から県立歴史館へご寄贈)

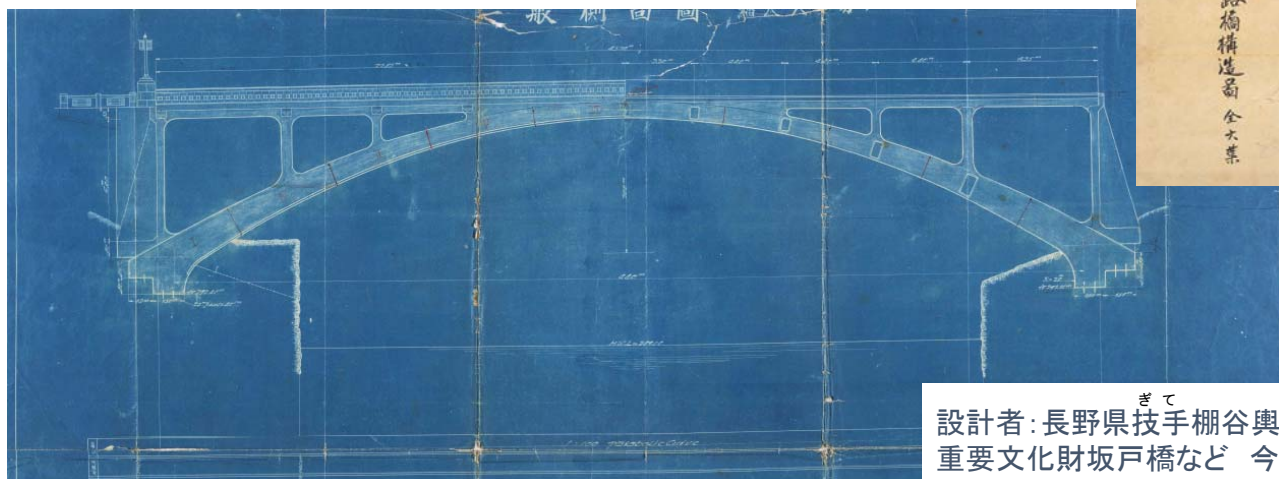


久米路橋設計図(戦前の青焼き図面)

5

棚谷奥市資料(県立歴史館所蔵)

久米路橋構造図 全大集

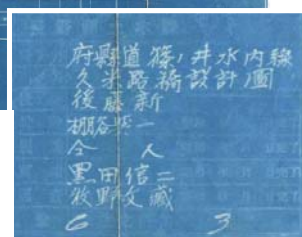


設計者: 長野県技手棚谷奥市^{ぎて}
重要文化財坂戸橋など 今も
現役の幾つものアーチ橋を設
計した。

鉄平石張りが図
示されている。



図面の特徴: 戦前の青
焼きは青地に白線。

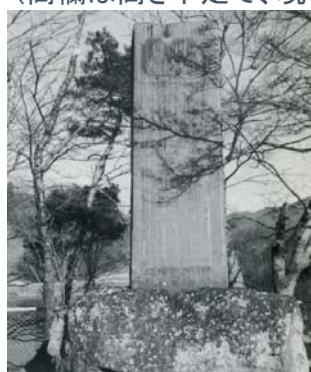


歴史の舞台にふさわしい久米路橋の橋詰^{はしづめ}

6



伝統的な木造形式の橋詰の様式を引き継ぐデザイン。
親柱も石張りの重厚さをもつ。
(高欄は高さ不足で、現代構造に補修された。)



橋詰の記念碑

久米路橋完成後に現在の国
道19号になる長野・明科間の通
称「犀川線」が全通する。

その開通記念碑は、明科、生
坂と久米路橋の3箇所に建立さ
れる。戦前の県内主要道路の
歴史を伝えている。



平安時代の「拾遺和歌集」の歌碑

「埋(うもれ)木は なか蟲(むし)ばむ
といふめれば 久米路の橋は心し
てゆけ」と詠まれている。